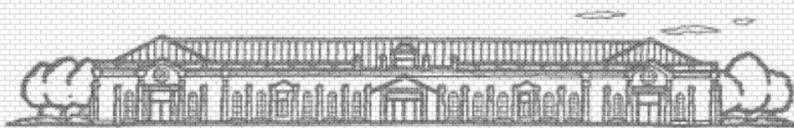


ひろしま



郷土資料館だより

歴史と暮らしの赤れんが博物館

広島市郷土資料館

HIROSHIMA CITY MUSEUM OF HISTORY AND TRADITIONAL CRAFTS

平成 20 年 (2008) 3 月 31 日

第 75 号



大正 11 年(1922)ころのかもじづくりの作業場 (宇都宮幸枝氏提供)

「矢野かもじ」は、広島伝統的地場産業の一つであり、かつては「熊野の筆」、「備後の畳表」と並んで広島県の三大特産として広くその名を全国に知られていました。今ではほとんどその名は聞かれなくなりましたが、現在も広島県の伝統的工芸品に指定されています。

矢野かもじの起源は江戸時代半ばといわれており、最盛期は大正時代から昭和時代はじめにかけてでした。特に写真の時期の大正時代終わり頃には全国のかもじ生産量の約7割を占めており、矢野の約8割の人たちがかもじづくりに携わっていました。

平成19年度後半（10月～3月）に実施した事業

企画展

かもじとかつら

矢野のかもじを知っていますか？

【会期】1月12日(土)～4月13日(日)

広島市安芸区矢野地区でかつて盛んであったかもじづくりは、「矢野かもじ」と呼ばれる広島伝統的地場産業の一つです。今回の展示会は、この矢野かもじの歴史、かもじ・かつらづくりの工程や製品のほか、現代に受け継がれた伝統技術について紹介し、矢野かもじを通して郷土広島のことをもっと知ってもらおうと企画したものです。



矢野・尾崎神社下に見られる「^{かもじ}之碑」

展示構成は、①「かもじ」ってなあに？ ②かもじの里「矢野」 ③かもじづくり ④かつらづくり ⑤宇都宮かつら店 ⑥矢野かもじの伝統の6つのコーナーからなります。はじめに語源や歴史など、かもじとは何かを解説パネルなどで紹介しました。かもじのことを知らない人が多く、熱心にメモをとる人も見受けられました。次に矢野でかもじづくりが盛んになった理由や盛衰の歴史について、矢野かもじ発展のキーポイントとなった人毛の油抜き用粘土（ひげ土）を、当時の土取場跡から採取して展示したほか、略年表や統計パネル、写真、海外輸出用商標などの資料で紹介しました。来館者はかもじ業が好不況の激しい産業であることや、矢野かもじが早い時期（明治32年）から海外輸出されていることに驚いていました。

かもじ・かつらづくりのコーナーでは、時代とともに「かもじ」から「日本髪かつら」、「洋かつら」へ変化していった矢野かもじの変遷とそれぞれの作業工程を、製品や材料、道具などの資料と写真や解説パネルで紹介しました。職人の高度な技術や工夫された道具などに、多くの来館者が感心していました。



矢野かもじの伝統のコーナーでは、矢野かもじの伝統技術を使って現在製造されているかつら製品を展示しました。これにより、ほとんど目にするこゝとがなくなった矢野かもじが、姿を変えて現在も我々の身近に存在していることを知ってもらえたのではないかと思います。

企画展の関連事業としては、会期中の毎週日曜日に「展示ガイド」を開催するとともに、矢野かもじのルーツを訪ねて矢野の街をめぐる「かもじの里めぐりツアー」を開催しました。どちらも矢野かもじに興味を持った参加者にぎわいました。

最後になりましたが、今回の展示に当たり多大なご協力を賜りました株式会社スノキ様に厚くお礼申し上げます。

【企画展関連事業】

毎日曜日 展示ガイドツアー

2 / 10 郷土史講座（安芸区図書館共催）「矢野のかもじをしつていきますか？」

3 / 16 かもじの里めぐりツアー（片山和哉）

郷土資料館の刊行物

郷土資料館では、収蔵資料を紹介する「資料解説書」、地場産業や年中行事等をまとめた「調査報告書」、特別展を解説する「図録」などを刊行しています。みなさまの学習や研究にご活用ください。

一覧は当館ホームページでごらんいただけます。

<http://www.hiroins-net.ne.jp/kyodo/>

お求めは当館（253-6771）または広島市公文書館（243-2583）へ



資料解説書「かもじづくり」

「ごんぎつねが語る昔のくらし」

【会期】9月8日(土)～1月6日(日)

新美南吉の「ごんぎつね」は、小学校4年生の国語の教科書に半世紀にわたり取り上げられている人気の教材です。童話としておもしろいだけでなく、物語の中にいきいきと描き出される昔の農村での生活は、「くらしのうつりかわり」という小学校3年生の社会科の単元でも十分活用できるものです。当館では、小学校中学年の国語科・社会科と関連づけ、物語に登場する暮らしの道具や情景を再現した展示「ごんぎつねが語る昔のくらし」をこれまでも企画してきましたが、近年は小



学校4年生を中心に多くの学校で活用していただき、秋の社会見学の定番となりつつあります。今後も内容を充実させながら、「ごんぎつねが語る昔のくらし」をお届けしてまいります。

展示では、各所に配置した「ごんぎつね」の人形が子どもたちを物語の世界に誘う役目を果たしました。学校で事前に予習してきたさまざまな暮らしの道具を見つけては歓声が上がリ、初めて間近にした本物の火縄銃に見入る様子は、ごんの悲しい最期にも思いを寄せられているようでした。

会場では、平成19年に新美南吉顕彰会が新たに制作したDVD「新美南吉の生涯と作品」も随時上映しました。「ごんぎつねの生みの親である南吉の人となり、あるいは物語の舞台にもなった半田市岩滑の自然などを映像で堪能することができ、展示とはまた一味違った方向から物語への理解を深めていくことができたのではないかと思います。

関連事業として、広島市子ども図書館の協力を得て、「ごんぎつねの紙しばいをみよう」という催しを行いました。「ごんぎつね」をメインに新美南吉作品の紙しばい2本と、「てぶくろをかいに」や、南吉作品ではありませんが「ねえ、どっちがすき」など、きつねが出てくる絵本の読み聞かせを願いました。まだごんぎつねのお話を読んだこ

とのない小さなお子さんにも楽しんでいただけました。



ふわふわのごんぎつねができました。

また、同じく関連の教室として「ごんぎつねの人形作り」を実施しました。羊の原毛を染めたフリースを丸め、特別な針で突き固めていくと、フェルトのごんぎつねが誕生します。針を使う製作でしたが、十分注意して作業しましたので、園児や小学校低学年のお子さんにもかわいいごんぎつねを作ることができました。

【企画展関連事業】(土曜教室のぞく) 毎日曜日 展示ガイドツアー(小学校3・4年生向け)

10 / 13 「ごんぎつね」の紙しばいをみよう(講師・広島市子ども図書館・村本さん)

10 / 20 「ごんぎつね」の人形作り(前野やよい)

平成20年度前半の催し

企画展

広島市の遺跡を掘る

〜考古遺物から見る広島〜
4月19日～7月6日
広島市内の発掘調査の成果を通し、広島市の古代にせまる!! はじめて日本の古代にふれる小学校6年生も必見です。

特別展

川瀬巴水展

4月26日～6月1日
「昭和の広重」とも呼ばれ、海外で高く評価されている版画家・川瀬巴水。彼が残した美しい日本の風景を西日本を中心に紹介します。広島では初の展覧会です。

特別展

水木しげる 妖怪道五十二次

7月19日～8月31日
ゲゲゲの鬼太郎やその仲間たちが妖怪道を旅していきます。その妖怪の版画や、妖怪が憑く昔の道具などを紹介します。

土曜教室

伝統的な物づくりや昔ながらの遊びの体験、地元広島にちなんだ内容の教室。幼児・小学生向けから大人も参加できるものまで、多彩な事業を行いました。

- 11/24 昔のスイーツくずざり作り
- 12/8 いろんなコマで遊ぼう
- 12/15 ワラのクリスマスマリース
- 12/22 もちつき体験
- 1/12 まゆ玉でねずみ人形づくり
- 1/19 広島発祥！バウムクーヘン作り
- 1/26 磯の香り！ノリすき体験
- 2/9 あぶり出しアートにチャレンジ！
- 2/16 からくり板返し作り
- 2/23 組みひもストラップ作り
- 3/1 折り染めのおひな様作り
- 3/8 わらざり作り

大人向け講座

主に平日(第3金曜日)に18歳以上を対象とした講座を行いました。大人ならではの手ごたえあるプログラムを用意しました。

- 10/27 刀匠に学ぶ！鉄を鍛えろ！
ペーパーナイフを作る
- 11/23 糸紡ぎ体験
- 12/21 しめ縄作り
- 1/25 江戸時代のカキ船料理再現
- 2/22 古文書講座

駄菓子づくり広場

「ボランティアさん大活躍！」



郷土資料館では、11月3日(土・祝)、「駄菓子づくり広場」を開きました。館内外各所で一銭洋食・カルメラ焼き・綿菓子・黒蜜だんご・きな粉飴といった駄菓子づくり、竹とんぼ・こまなどのむかしのおもちゃ体験、ヨーヨー釣りのほか、藍染め体験などのブースを設け、むかしの食べ物・あそびを体験していただきました。この催しは昨年度から始まったのですが、資料館は大賑わいで、各ブースには長蛇の列ができ、職員は半ばパニック状態となりました。今回はこの春から立ち上げた歴史系3館合同ボランティアの方々にご参加いただき、準備を行い

ましたが、今年はさらに多くのお客様がこられ、結局目の回るほどの忙しさは変わらず、参加した約20名のボランティアさんには昼食も満足にとつていただけないほどでした。それでも皆さん疲れた顔ひとつせず、お客様と一緒に楽しんでくださいました。うれしいやら申し訳ないやら、皆さん本当にありがとうございました。この歴史系3館合同ボランティア、資格や経験は問いません。随時募集中ですので、お気軽に声をかけてみてください。

(大室謙二)

その他の事業・館外活動

- 10/7 二葉公民館で市民アカデミー事業・『広島カープ昔話』で講座「カープと市民球場」
- 10/7・8 広島県立大学紫苑祭で体験コーナー「勾玉作り」
- 10/23 広島県民文化センターで郷土史講座「広島の害虫防除の歴史」
- 10/27 佐東公民館で講座「子どもわくわくムカシ発見隊・比べてみよう！今の暮らしとムカシの暮らし」
- 10/28 広島市植物公園・秋のグリーンフェア2007で「かんたんはたおり教室」(文化財課と出展)
- 11/10 秋のひろしまウォーキング(ひろしま歴史系4施設ジョイント事業)
- 11/11 図書館まつりで「まゆ玉でつくるうごんぎつね」指導(安芸区図書館との共催事業)
- 11/21 湯来農村環境改善センターで講座「芸備孝義伝から学ぶ生き方②」
- 11/28 湯来西公民館で講座「芸備孝義伝から学ぶ生き方③」
- 12/3 広島市立大学で博物館学講座「博物館資料論」
- 12/14 彩が丘小学校PTCでワラのリース作り指導
- 12/16 宇品公民館で「勾玉作り教室」
- 12/19 上安小学校でわからないの講座
- 2/2 文化講座「ひろしまの食の歴史を語ろう」(ひろしま歴史系4施設ジョイント事業)
- 2/23 佐東公民館で講座「子どもわくわくムカシ発見隊・ムカシ遊びをしてみよう」
- 2/26 あやめ幼稚園で「折り染めのおひな様づくり」
- 3/2・9 宇品検定ツアー(宇品公民館との共催事業)
- 3/8 南区魅力発見事業「温故知新」で市民球場の歴史コーナーへ協力
- 3/23 広島市文化財団ボランティアフェスティバル
- 3/29 元宇品留守家庭子ども会「勾玉作り」

郷土資料館トピックス

○職場体験学習



パソコンで資料のデータを入力(宇品中学校生徒)。

本年度は、国泰寺中学校・宇品中学校の2校から、職場体験実習生を受け入れました。職場体験学習のねらいは、これから社会に踏み出していく中学生に、学ぶことの意義や働くことの意味を理解し、主体的に進路を選択決定する態度や意志、意欲などを培ってもらうこととされています。当館としても、次世代を担う子どもたちを社会全体で育成するという観点に立ち、学校の取組やその活動を積極的に支援・協力するのはもちろん、博物館という施設でどんな仕事をしているのかについて知ってもらうよい機会と考えています。

資料館での仕事は多岐に渡っていますが、今回中学生に体験してもらったのは広報用資料の仕分けや、館内で配布しているカキ養殖に関するパンフレットのセット、土曜教室の準備、資料の整理や片付けなど、館のバックヤードで行っている仕事と、見学に来館する小学生への同行、つまり直接利用者の方に対応する外向けの仕事でした。最初は言われるままに作業をしていた生徒たちも、自分から積極的に仕事を求めるようになり、小学生の自由見学の時には体験ルームで昔あそびをリードする姿も見られました。

国泰寺中学校の実習時は、たまたま1月26日の文化財防火デーを前に広島市の重要有形文化財である郷土資料館の建物を会場に消防訓練が行われることになっていました。学校での訓練とは違った雰囲気の中でそれぞれ事前に分担しておいた役割をきちんと果たしてくれました。文化財保護の一端に触れてもらう機会になったと思います。宇品中学校の実習では、受け入れたものが広島市の資料として登録されるまでの過程をひととおりたどり、データベースに登録するための画像データの取り込みも行いました。来館者としては体験できない博物館の大切な仕事を体験してもらえたと思います。

(前野やよい)

○歴史系ジョイント事業報告

広島城・広島市郷土資料館・縮景園・頼山陽史跡資料館の歴史系4館がそれぞれの特徴を生かして連携し事業を行って今年度で4年目となります。当初はスタンラリーのみでしたが、参加される方の要望にも応え広島城域、本通などの城下町の名残などをめぐるウォーキング、各館の展示解説などを行っています。

今年度はそのほかにも、4館が「広島島の食の歴史を語ろう」というタイトルで共同講座を開催しました。それぞれの館で調査している内容で、江戸時代以降の、広島食文化を紹介しました。1館あたりの紹介時間は約30分程度でしたが、体験などもあり、参加された方は楽しんでいただいたようです。広島城は「江戸時代の食」というテーマで、江戸時代に食べられていたものや食べられていなかったもの、武家の食事の献立を紹介しました。現代の和食と呼ばれているものはほとんど江戸時代に確立したことがわかり非常に興味深い内容でした。頼山陽史跡資料館は膨大な頼家の古文書の調査から得られた、「頼家の祭祀と献立」で頼家の儀式に伴う食事や作法について講演し、武家とはまた違った江戸の食文化や、頼家特有の献立が垣間見え、内容の深いものでした。郷土資料館は「広島風

お好み焼きのルーツ」と題し、近代の食文化の中で定着していった粉文化を紹介し、広島の特産品ともなっている「お好み焼き」のルーツ「一銭洋食」を紹介しました。この日は、参加者で一銭洋食を実際に作って試食を行う体験も取り入れたところ、昔の一銭洋食の味や、入っていた具材などの話でも盛り上がりました。身近なテーマでもあり、関心をもたれた方は多かったようです。

来年度以降も4館が連携し、資料館などがそれぞれ1館ではできないサービスマスターや事業を提供していきたいと考えています。

(小林奈緒美)



懐かしく感じる方もあれば、新鮮な感動を覚える方も

寄贈資料(平成19年10月～平成20年2月受入分)

貴重な資料をご寄贈くださいましたみなさま、ありがとうございます。

資料内容	件数	寄贈者(敬称略)
カモメホーム洗濯機①	1	菅 松夫
絵葉書「広島全景」	1	小河内 俊彦
絵葉書「広島市庁舎」	1	
絵葉書「広島元安橋」②・「広島本川橋」	2	
絵葉書「安芸厳島 鉄道連絡船」	1	
絵葉書「昭和産業博覧会第一会場演芸館の広島踊」③	1	
絵葉書「広島県物産共進会第二会場 正門」	1	
絵葉書「広島市胡町尼子醸造場」	2	
絵葉書 旧日本陸軍の漫画絵葉書④⑤	8	
広島新聞(昭和16年6月20日、7月24日刊)	2	
「宇品築港竣工五十周年記念」お猪口⑥	1	塚田 淑子



①昭和32年発売



②昭和初年頃撮影

*資料名に付した番号は掲載写真の番号と一致します。



③昭和4年撮影

④非常呼集



⑤砲兵



⑥昭和14年配布

広島市郷土資料館

<利用案内>

【開館時間】9時～17時(入館は16時30分まで)

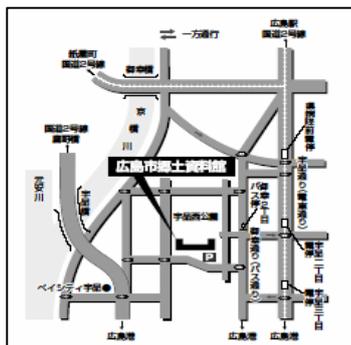
【休館日】毎週月曜日、国民の祝日の翌日
(月曜日が祝日の場合はその直後の平日)
年末年始(12月29日～1月3日)

*その他、臨時休館日等につきましては、
ホームページ等でご確認ください。

【入館料】大人 100円(団体80円)
小人 50円(団体30円)

*団体割引は30人以上

*小人は小中高生と15歳～18歳に達する日
以後の最初の3月31日までの間にある人



<駐車場> 乗用車 約10台(無料)

<交通案内> JR広島駅・紙屋町から

【電車】 広島電鉄
広島港(宇品)行き
宇品二丁目下車、西へ300m

【バス】 広島バス
21-1 御幸通り経由広島港行き
御幸2丁目下車、南西へ200m
21-2 ベイシティ宇品経由広島港行き
ベイシティ宇品下車、北東へ600m

ひろしま郷土資料館だより 第75号

【発行年月日】

平成20年3月31日

【編集・発行】

(財)広島市文化財団 広島市郷土資料館

〒734-0015

広島市南区宇品御幸二丁目6-20

TEL(082)253-6771 / FAX(082)253-6772

<http://www.hiroins-net.ne.jp/kyodo/>